

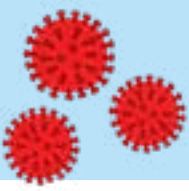
冬の感染対策について

感染防止対策部門 山之内 美幸



新型コロナウイルス感染症に翻弄され続けておりましたが、2023年5月より5類になりました。それに伴い、いろいろな制限が少しずつ緩和されています。しかし、5類になっても感染対策に変わりはありません。

そして、冬の季節はインフルエンザや胃腸炎などウイルス性感染症が流行する時期でもあります。なぜ、冬にウイルス性感染症が猛威を振るうのか、またその予防策についてお話ししたいと思います。



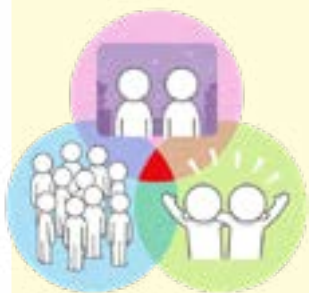
冬に流行する理由は、「感染が成立しやすい」からです。なぜ感染が成立しやすいかというと、病原体である“ウイルス”と、免疫力が低下するなど、感染する“ヒト”の条件が揃うからです。

ウイルスの種類にもよりますが、冬の気温や湿度がウイルスにとって、至適な環境を作るのです。15℃以下の気温と40%以下の湿度によりウイルスは、表面の水分が蒸発し空中に浮遊しやすくなります。このような環境下では、ウイルスの生存期間も長くなるため、感染が拡がりやすくなります。



私たちはこれからも新型コロナウイルス感染症と共存しながら生活していくことになり、さらに、新しい感染症が流行することも考えられます。

そこで、これからの日常生活におけるポイントは、密閉空間・密集場所・密接場面という「3つの密」を避けることです。これらは、いろいろな感染症の予防にも有効です。それ以外にも室温を22～26℃、湿度を50～60%に保つ等の環境調整やバランスのとれた食事・睡眠などで免疫力を高めることが重要だと思います。



感染症に対しては総合的な対策が必要ですが、誰にでもできる身近なことに加えて、手洗いや咳エチケットという基本的な予防行動を心掛けて冬を乗り切っていきましょう。しかし、最近冬に流行する感染症が、冬以外に流行することもあるので、注意したいですね。

皆さんが安心して病院にかかることができるように、病院の感染防止対策部門は、感染を成立させないために、感染源を「持ち込まない」「持ち出さない」「拡げない」ための感染対策を実施していきます。

